

令和6年第1回 3月予算 特別委員会

契約関係

式根島憩いの家プラットフォーム整備工事費の内容は？

概要…老朽化した「式根島憩いの家」の改修工事に伴う工事費約1億9千万円（建築1億1千万円、設備約8千万円）の請負契約締結について説明があった。

問 工事期間やサウナ・露天風呂・手すりの設置等があるか？ 内容について説明を求める。

答 工事期間は令和6年3月から7年2月までの約1年、浴室の拡張が主で従来の2倍弱程度、未利用だった空間を有効活用し、全体的に広く使えるようになる設計である。また、手すりは設置するがサウナ、露天風呂は湯量や予算、働き手の確保等の問題上、設置できなかつた。

GovTechTokyoの進捗状況は？

概要…都市区町村が連携したデジタル化を推進する目的の団体GovTechTokyo（ガバテックトーキョー）が設立され、新島村も加入にあたり負担金15万円が計上されている。

問 今後の活用計画について現時点での進捗や行政内の課題は？

答 今年度もウェブサイトの検証などを行っていたが、DX全体のマネージメントのできる担当が必要。具体的な内容は調整中だが、先進事例を参考に進めていきたい。

新島村地方人口ビジョンおよび地方版総合戦略事業について今後の期待は？

概要…新島の移住促進や関係人口増加等を目的とした事業であり、今期約400万円の予算が計上されている。

問 今回の更新の目玉は？

答 内容は検討中だが、大枠としてデジタル化を計画している。

空き家対策予算の内訳は？

概要…新島村の空き家対策

策事業費約3200万円のうち、委託料として約2900万円が計上されている。

問 委託料の内容と進捗状況は？

答 主に実態調査の委託料で、今期は実態調査の実施と計画の策定を予定している。

衛生費

出産に係わる交通費助成について、男性には適用できないか？

概要…住民の出産に係る負担を軽減する目的のため、今期予算として「出産に係る交通費助成金298万円」「里帰り等妊婦健診費助成金約52万円」が計上されている。

問 出産・健診の立会や帰

島にあたっての出迎えなど、出生支援の観点から男性も含めた援助はできないか？

答 出産時の男性の交通費助成としては用意していないが、多胎児で二人同時に健診に行く場合、両親分の交通費を助成するように今年度規則を見直している。

農林水産業費

有害鳥獣防除事業の見直しは？

概要…長期にわたって鹿駆除を主に有害鳥獣防除事業を実施しており、今期予算として約4000万円が計上されている。

問 長年鹿の駆除を実施しているが、未だ駆逐には至っておらず、また従事者の高齢化に伴い慢性的な人

手不足でもあると聞いている。今後は事業の大幅な見直しが必要では？

答 対象個体数が減っていくほど駆除が難しくなり、生息地も山奥に移動し作業も厳しくなっている。今後は従事者・専門家を交えて検討し、方向性を定めていきたい。

農業用水施設DX化推進事業の内容は？

概要…たびたび断水等のトラブルが起こっている農業用水施設を、DX化により監視するための予算約750万円が計上されている。

問 DX化の想定は？ポンプ稼働率と連動した遠隔・自動散水等は検討しているか？

答 農業用水の流量や水圧をモニターで随時監視し、漏水・断水等に即対応するためのDX化であり、水やり等は計画していないが、ふれあい農園の遠隔散水のノウハウも教えることはできる。

商工費

コーガ石事業の計画内容は？

概要…今期コーガ石事業費として約340万円が計上されている。

問 コーガ石の建物が文化遺産となったこともあり、コーガ石の利用に対して何かしらのアクションを起こすべきでは？

答 新島の景観についての取り組み等を参考に、他部署と連携してガイドラインの作成等を考えたい。

コーガ石建造物の保存に努めたい。

観光案内窓口事業費の内容と今後の計画は？

概要…新島・式根島における観光窓口業務費として約2190万円が計上されている。式根島においては式根島観光協会に委託されているが、新島においては昨年からの観光案内所として地域おこし協力隊が主に運営している。

問 新島・式根島の業務内容と今後の新島の観光案内所の運営は？

答 式根島はツアー案内業務を行っているが、新島は行っておらず、会員サービスが主な業務ではない。地域おこし協力隊の任期は3年であり、そ

の後の運営方法はまだ決まっていないが、業務内容を集約し今後の方針を検討していきたい。

連絡船事業

にしき代船を購入し今後の運用計画等は？

概要…連絡船にしきの定期検査時等の代替船として、およそ18トン・定員40人のFRP小型船舶を約4500万円で購入した。

問 代船を購入のメリット・デメリットおよび今後の運用計画は？

答 運用計画については今期運航データの収集に努め、費用対効果や有効活用の可能性を検討していく。

◇メリット◇

・定期検査時に乗員数を含め問題なく運営ができ、通常の乗船料が徴収できる。

・燃料消費量は「にしき」の半分程度となる。また冬季など比較的乗船数が少ない時期は「代船」を通常運行することで燃料費が節約できる。

・チャーター船の利用が定期航路の運行時間に縛られず利用でき、その際の燃料費も節約できる。

◆デメリット◆

・2隻の船舶を所有することにより、維持・管理・運営費が増大する。

・船舶の係留場所の確保、や、保管時揚場の確保、今後漁業者等と話し合いが必要。